

# FCDIC 2023年度 年間行事予定

時期	参加資格	行事	備考
7月末日	<b>会員無料</b> (非会員価格で購入可能)	夏号機関誌発行	トピックス・投稿論文
9月7日	<b>会員のみ</b> (海外会員参加不可)	理事会・総会・ 研究会・名刺交換会	招待講演 (NEDO、文科省) ・会員相互交流
10月18日	<b>会員のみ</b> (海外会員参加不可)	見学会	FC-Cubic (山梨) を 候補に調整中
10月末日	<b>会員無料</b> (非会員価格で購入可能)	秋号機関誌発行	トピックス・投稿論文
11月15日	<b>会員価格</b> (非会員価格で参加可能)	セミナー (オンライン併催)	水電解・水素製造方法、 ロードマップ等
12月6日	<b>会員価格</b> (非会員価格で参加可能)	寺子屋式講習会	入門者向け講習会 (セル組立て実習あり)
12月末日	<b>会員無料</b> (非会員価格で購入可能)	年報発行	会員の年間活動報告
1月末日	<b>会員無料</b> (非会員価格で購入可能)	冬号機関誌発行	トピックス・投稿論文
1月30日	<b>会員のみ</b> (海外会員参加不可)	理事会・研究会・ 賀詞交歓会	招待講演 (調整中) ・ 会員相互交流
3月 日	<b>会員のみ</b> (海外会員参加不可)	見学会	調整中
4月末日	<b>会員無料</b> (非会員価格で購入可能)	春号機関誌発行	トピックス・投稿論文
5月23日 ～24日	<b>会員価格</b> (非会員価格で参加可能)	シンポジウム (学会形式)	業界動向を全て集約 (500人規模)
6月 日	<b>会員価格</b> (非会員価格で参加可能)	寺子屋式講習会	入門者向け講習会

会員種別	会員数	年会費
正会員 (法人/特別会員)	93/8	240,000円
公共会員 (自治体など)	1	120,000円
学会会員 (大学などの個人)	76	8,000円
海外会員 (法人・個人)	4	60,000円

## 燃料電池開発情報センターの歴史

1985	通産省工業技術院燃料電池担当開発官らにより燃料電池の開発・普及に向けた組織づくりが進められた
1986	電力会社、NEDO、電機メーカーなどの協力の下に「燃料電池開発情報センター」(FCDIC)が発足。初代代表は三井恒夫東京電力(株)常務取締役、会員数は78機関、暫定的に工業技術院内に事務所を設立
1987	年報「日本における燃料電池の開発(Fuel Cell R & D Japan)」(和文、英語併記)を創刊、現在に至る
1988	ニュースレター(A4、12ページ程度、年4回発行)を創刊、2001年まで継続し、以後機関誌に発展
1994	海外会員制度導入 FCDICのロゴマーク採用 第1回「燃料電池シンポジウム」を学士会館で開催(参加者は508名) 第1回燃料電池セミナーを開催、現在に至る
1995	1st IFCC(国際燃料電池会議、NEDO主催、METI後援、東京)の事務局業務受託
1997	学会会員制度導入 第2代代表として片岡宏文氏(東京ガス最高顧問)が就任
1999	3rd IFCC(NEDO共催、名古屋)を開催
2001	機関誌「燃料電池(The Journal of Fuel Cell Technology)」を季刊として創刊、現在に至る
2002	第1回寺子屋式講習会(初心者向け燃料電池講習会)を開催、現在に至る 2003年~2007年にかけて、正会員数は200機関を超える(シンポジウム参加者は1000名を超える)
2011	第3代代表太田健一郎氏就任、現在に至る
2013	第1回国際交流会をFC懇談会と共催で開催、現在に至る
2014	一般社団法人「燃料電池開発情報センター」発足 公共会員制度導入
2016	30周年記念事業として「日本の燃料電池の歴史」(245頁)創刊、顕彰制度(特別功労賞、産業貢献賞、学術賞、奨励賞)実施などを行う
2018	50年後の燃料電池を考えるWG発足
2023	グリーン水素研究会発足予定